

令和3年度 吉川市立南中学校 学校公開用

この学校評価は、学校の現状やこれまでの努力とその結果を公表し、家庭・地域にお知らせするとともに、今後の取り組みに向けて家庭・地域の理解や連携協力をお願いするものです。

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての 評価の説明及び学校の考え	学校関係 者評価	評価に対する学校の説明・考察
1	学校教育目標の実現のため、様々な取り組みに努めている。	A	様々な教育活動を通して、生徒がわかった！できた！を実感でき、自らの成長を自信につなげることができるよう努めている。	A	様々な教育活動において「生きる力」を育む取組を行っている。引き続き生徒一人ひとりの良さを引き出し、成長を自信につなげることができるような教育活動を展開していく。
2	学校は、児童生徒の学習環境の整備に努めている。	A	オンラインによる授業配信体制の整備など、コロナ禍においても生徒の学びを止めない学習環境の整備に努めた。	A	ICT機器等を活用した教材の工夫や、タブレット端末を用いた授業実践など、積極的に生徒の学習環境の充実に努めている。
3	校長を中心として、全職員が協力して児童生徒のために努力している。	B	各職員が校務分掌のそれぞれの役割に責任をもってあたっている。負担の偏りを緩和していくため、分掌や学年を越えた連携を密にしていこうと努めている。	A	今後も生徒のためになることを念頭に、全職員が丸となって、安心・安全で落ち着いた学習に取り組める学校を目指し、教育活動を推進していく。
4	学校は、保護者や地域に学校行事や授業を公開している。	B	昨年度に引き続き、学校行事の縮小や学校公開の中止等が重なってしまったが、できる限りの機会を設けることができた。	A	コロナ禍という状況の中で、学校行事や学校公開の中止や規模の縮小があったが、可能な範囲での公開を実施した。
5	学校は、学校の様子や成果を「学校だより・学年だより」等を活用し、情報提供している。	A	定期的に発行される「学校だより」やHPの更新を通して、本校の様子や良さを積極的に発信している。	A	学校だよりやHPによる情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりに努めている。
6	学校は、保護者や地域からの相談や要望に応えている。	A	教職員は情報の共有を密に行い、管理職の指導の下、学校運営の改善につながるよう組織として連携している。また、保護者や地域からの情報提供に丁寧に対応している。	A	家庭・地域からの要望に対して、真摯に受け止め改善に努めてきたが、今後も全職員で積極的な生徒指導、生徒理解に努めていく。
7	児童生徒は、落ち着いて学習に取り組む、学習内容を理解しようとしている。	A	授業規律が成り立ち、落ち着いた環境の中で意欲的に学習に取り組んでいる。	A	どの学年においても落ち着いた雰囲気の中で意欲的に学習に取り組んでいる。学習内容の定着を図るため、引き続き授業改善に努めていく。
8	学校は、教材や指導方法を工夫し、児童生徒にわかりやすい授業を心がけている。	A	研修等を通して、ICTの具体的な活用方法等を学び、授業に生かしていくことで、生徒が「わかった！」と実感できるような授業を心がけることができている。	A	タブレット等の整備に伴い、生徒の学習環境が大きく変化していく中で、授業改善に向け研修を行い、指導方法の工夫を図っている。
9	学校は、児童生徒の行動や能力を適切に評価している。	A	各教科で評価の観点点を明確にするとともに、教科部会で評価方法についての検討や確認を行い、適切に評価できるようにしている。	A	生徒の良さを褒めて育て、自己有用感の育成に努めている。また、各教科の評価基準を明確にし、理解を得るように努めている。
10	児童生徒は、進んであいさつをしたり正しい言葉づかいをしたりすることができる。	B	2学年において講師を招き、マナー教室を実施するなど、あいさつや言葉遣いについての学習を行った。日頃からの関わりや指導を大切にしていきたい。	A	学校内外において、進んであいさつをする生徒が多くみられるが、親しい間柄ほどあいさつや言葉遣いが難になる傾向があるため、日頃からの関わりを大切にしていきたい。
11	児童生徒は、学習のルールや生活の決まりを守ることができる。	A	生活や学習のルールや約束事について、年度当初に全体で確認する機会を設けている。また、教職員、生徒、保護者の共通理解を図るため、「南中ナビ」を作成し、活用している。	A	生活・学習のルールがよく守られており、落ち着いた学校生活を送っている。自転車の乗り方など、学校外においてもルールの順守ができるように継続して指導していく。
12	児童生徒は、時間を守ることができる。	B	本校ではノーチャイムを実践しており、生徒は常に時間を意識して行動している。移動教室の際などの教室外においても時計を見て行動することを意識させている。	A	ほとんどの生徒が時間を意識して行動できている。ノーチャイムの特性を生かし、今後も時間を意識した行動を促していく。
13	学校は、規範意識を高めるための指導に取り組んでいる。	A	生徒指導委員会を定期的に行い、生徒の状況や動向についての共通理解を図っている。また、学級委員会の取り組みを通して生徒自身から規範意識を高める活動を行っている。	A	学級指導や部活動等を通して、集団の一員としての自覚を持ち、規範意識を高めるための指導を行っている。
14	児童生徒は、体育の授業や部活動又は外遊びに意欲的に取り組んでいる。	A	感染症対策により制限がかかる中、ガイドラインの中で体育の授業や部活動に積極的に取り組んでおり、体力の向上につながっている。	A	活動に様々な制限がかかる状況の中、ガイドラインを遵守しつつも意欲的に取り組んでいる。
15	児童生徒が、健康な生活を送れるよう食育に取り組んでいる。	B	感染症対策のため、前向き給食、無言給食が慣行されており、残食の量が減っている。	A	給食指導を通して食事のマナーについて指導している。また、感染症対策のため前向き給食・無言給食を敢行しており、残食の量が減少している。
16	学校は、児童生徒の健康・安全や体力向上に向けた取り組みを行っている。	A	感染症対策のため、健康チェックの徹底や換気、手洗いうがいの取組を行い、生徒の健康管理に配慮した。また、毎月施設設備の安全点検を実施し、安全に配慮した。	A	感染症対策のため、日々の健康チェックや換気等の徹底を行った。自転車の乗り方など、学校内外での自他の安全に対する意識を高める取り組みを実施していく。
17	学校は、児童生徒の立場に立ち、一人一人の思いや願いを大切にしている。	A	学校生活がどの生徒にとっても安心・安全なものできるように、教職員間での情報共有や報告・連絡・相談を密に行っている。また、家庭との連携も丁寧に行っている。	A	日々の学校生活の中で生徒理解に努めるように努めている。さわやか相談員や養護教諭、スクールカウンセラーとの連携を継続していく。
18	学校は、いじめや不登校をなくすため、児童生徒への指導の充実を図っている。	A	いじめや不登校の解消を目指し、定期的にアンケートを実施して実態把握に努めている。また、教育相談委員会を定期的に実施し、細かな情報の共有に努め、生徒の内面の指導に力を入れている。	A	定期的なアンケートや面談を実施し、いじめの早期発見・対応に努めている。不登校対策として教育相談委員会でも個に応じた対応を検討し、小中学校や関係機関との連携も深めていく。